

平成26年度 学校評価報告書

学校名 皇學館高等学校・中学校

教育方針	<p>【中学】 建学の精神を堅持し、豊かな知性、清らかな情操、強い意思力もち、国家社会に貢献する生徒を、6年一貫教育のもとに育成する。</p> <p>【高校】 日本人としての正しい学問と高い教養をつちかうと共に、国際的な視野と豊かな感覚を備え、国家社会に貢献できる清純で気品ある生徒を育成する。</p>
教育目標	<p>品格ある生徒の育成と学力の向上及び個性の伸長に努め、生徒一人ひとりの自己実現を図ると共に、教育内容・方法の改善により、真に楽しく安全で信頼される学校づくりをすすめる。</p> <p>このため以下の目標を定め、その実現に努力する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訓育指導の徹底と人権・道徳教育の充実について、その方策を示し推進する。 2. 授業の改善と相談機能の充実を期し、個々の生徒が持つ能力の向上と適正の把握に努め、希望進路の実現率を高める。 3. クラブ活動環境の整備を図り、活力に満ちた活動の実績の向上に努める。 4. 授業の公開、外部教育力の導入及び高大連携を推進し、教育力を高める。 5. 保護者会、後援会との情報交流に努め、学校情報の公開を推進する。

(1) 学校教育基本計画における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
教員組織	<p>全教員による課題の共有化をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員研修会(年9回)の開催(高校) ・教員研修会の随時開催(中学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が参加し、教員研修会を通じて、情報の共有や報告を行い、課題の洗い出しと改善策について、話し合った。(高校) ・ICTの授業への活用と情報発信力のある生徒の育成をテーマに、研修会を開催した。(中学) ・グローバル教育とアクティブラーニングの取り組みについて、それぞれの教科や部署で次年度に向けての話し合いが行われた。(中学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2月の高校教員研修会では、《学力向上へ向けての取組と対策》をテーマとし、グループディスカッション方式による全員参加型の研修会が行なわれ、対策等の共有化をはかる端緒となったが、議論の深まりはこれからという状況にある。(高校)
	<p>分掌単位での部会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年会を毎週開催する。(高校) ・校務委員会で目標を共有化し、随時部会・学年会・教科会を実施(中学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年において、学習習慣の定着、学力向上や生徒の問題行動の抑止ならびに、その対応について検討した。(高校) ・6年後の新入試制度を見据え、授業などの指導の方向性を検討した。(中学) ・英語力の強化。(中学) ・朝スタ・総合学習の見直しを図った。(中学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒の自宅学習の習慣づけと家庭学習の時間確保」の課題を改善する方策について、更なる検討を重ねていく必要がある。 ・学校評価の「学習チェックシートは役立っている」(46%)の評価を鑑み、その改良を図る。(高校)

<p>教科会の実施と指導技術の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週定時に教科会を実施する。 ・互見授業を隔月実施する。(高校) ・年度ごとにテーマを決めて、互見授業・研究授業を実施し、そのつど教科会と全体の研修会を行う。(中学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会で課題・指導技術の共有、反省点を確認した。 ・互見授業後、指導技術の向上に関する意見交換会を行なった。(高校) ・今年度はICTを活用をテーマに、主要5教科で互見授業・研究授業を実施した。(中学) 	<p>各教科において、学力定着のため、教材の工夫がおこなわれ、予習復習の習慣化等が指導されているが、更なる向上を必要とする。</p>	
<p>教員面談の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの結果に基づき評価が芳しく無かった教員(5名)に対し校長が面談を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改善結果がかんばしくないので、面談者の追加、面談方法の検討が必要である。 	
<p>教員の採用人事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的な教員の欠員補充の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの英語退職者をみたが、予定通りの人員補充ができた(3名)。 ・各教科において、将来の必要人員を見越した再任用教員の補充をおこない、充実が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期計画による将来人員、年齢構成を考慮した補充を、今後とも行なう。 	
<p>教育活動</p>	<p>人権道德教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権意識アンケートを定期的実施する。 ・人権意識アンケート、人権講話、人権教育計画の実施などを通じて、充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校は、人権アンケートを5月(1年)、12月(3年)に実施、中学校では、新入生を対象とした人権意識アンケートを5月に実施し、生徒の状況把握、いじめの実態把握への対応を図った。 ・人権教育講演会、人権学習(1,2学期)等により、人権意識の啓発と向上を図った。(高校) ・人権大学に教諭1名を派遣、研修にあたった。(中学) ・人権学習を実施(7月、12月)した。(高校) 	<p>アンケート結果の過年度では、「言葉でいやな思いをした」の項目では、15%(H24年)→10%(H25年)→9%(26年)と減少しており、その意味では人権意識の啓発と向上が図られた。教育相談部と学年との連携を一層深めていく。</p>
	<p>6年一貫教育プログラムの再検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年間を通じた実力養成講座として、従来の習熟度別講座を改編し、上位層に対する発展的授業の前進と、応用力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度より新入生のほか、在校生の一部を含めてS講座(習熟度編成による上位クラス)を開設、同講座生を対象に全国模試受験(Z会模試)や対策講座を実施し、また、英語力強化のために、英会話講座やENGLISH CAMPを実施した。(中学) ・新たな習熟度別講座を設計、S講座を軸とする、6年一貫を通じた発展的な実力養成講座をスタートさせ、高校課程で実施について検討を重ねた。 	<p>中高一貫教育の高校部分においてもS講座の固定化等、内容の検討が行なわれたが、S講座以外の生徒に対する指導内容を含め、保護者に十分に説明し理解を得る必要がある。</p>

	ICTの活用拡大 ・外部主催の各種研修会に参画し、効率的な活用法等について、授業への運用及び展開を図る。	・高校は、2号校舎で無線LAN環境を整備し、授業可能な空間を生み出した。 ・中学は、ICT機器を購入し、授業での本格活用をスタートさせた。 ・デジタルテキストを活用した授業形態について教科単位で検討し、研究授業で活用方法例等について逐次発表した。	研究授業の発表教員等では効果的な活用が実施されているが、教科によっては有効活用方法の研究が不十分な状況にある。
入試広報関係	学校案内・HPの更新 ・学校案内を一新し、本校のレイアウトを工夫する。 ・HPの逐次更新をはかり、情報発信の積極化に努める。	昨年度、学校案内、HPを一新し、大学・高校・中学の画面構成コンセプトを共通調整し、各部門で更新に意をはらった。アクセス回数については、月平均で高校が約5,000ユーザー、中学校が1,000ユーザーに達している。	本校の情報をよりわかりやすい形でタイムリーに広報するため、今まで以上に日々の更新、情報発信に努めることが必要である。
	積極的な広報活動 ・オープンスクールの実施 ・小中学校・塾への学校訪問等の実施 ・県内中部地域からの志願者増を図る。 《募集定員の確保》	・高校・中学校一体のオープンスクールが8月に実施され、高校1,112名、中学226名の参加があった。第2,3回目のオープンスクールも昨年度より多くの参加をみた。 ・中学校・塾への訪問、塾との懇談が実施され、小学校訪問募集活動が実施された。 ・中学校・高校ともに昨年度より受験生徒数を伸ばした。 《高校は389名、中学校は募集定員70名の入学生を確保した。》	・小学校訪問を通じ、入学後の受験生徒等の情報を提供し、小学校との関係を継続して築く必要がある。(中学) ・伊勢地域内での生徒数減少に対する歯止め策の検討を行なっているが、中勢地域からの受験生確保対策について、継続性ある努力を必要とする。(中・高共通)
進路指導関係	大学進学実績の向上 ・受験特化コースの設定と充実を図る。 特進、6年制は週3回の7限授業、英語・数学の強化を図る。 ・実力強化補習、サテライン講座を実施する。 ・学習合宿の実施	・特別進学(6年制を含む)コース専用のカリキュラム開設(平成25年度より) ・進学コース・・・課外授業、学力補充による、生徒個人個人の関心・適正に応じた指導を行った。 ・特進コース・・・課外授業、学習会、学力強化補習授業等を実施した。	平成27年度入学生より、進学コースにおいて、多様な進路希望や放課後のクラブ活動に対応するため、特進・6年制と比較し、7限授業を週2時間減じる。
	学年別進路指導の明確化 ・学年別の進路講話・個別面談等を実施し、進路意識の早期確立を図る。 ・大学受験の多様化に対応し、現役合格をめざす。	・学年別に進路指導計画を策定、実施した。 ・保護者に対し、進路講演会を実施した。 ・進路講話、就職・公務員ガイダンス、オープンキャンパス案内など、予定通りに実施した。 ・“Wish”(進路部発行情報紙)を、ほぼ月1回の割合で発行した。	生徒の進路意識の向上を目的とした、生徒自身が能動的に考えられるキャリア教育等の実施検討が必要である。

	<p>国公立大学合格に向けた指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学に合格できる学習環境・進路指導を推進する。 《国公立大学20名以上合格》 ・国公立大学の入試対策セミナーへ教員が積極的に参加し、生徒への指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・代ゼミサテライン(約110名)、センター試験・国立2次・私大入試対策模試の実施の他、全生徒に対して進路ガイダンス、本校主催の大学入試説明会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学の合格者は16名に留まった。 ・夏季課外授業、ハイレベル課外授業など大学進学対策として実施している諸事業に参加する生徒増を図る必要がある。
訓育関係	<p>訓育指導の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題の予防教育の実施 ・身だしなみ・生活習慣の指導 ・挨拶の励行(社会的な規範意識の向上) ・交通マナーの向上(交通事故防止)に注意を喚起する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校は、人権アンケート、人権学習、中学は、いじめに関するアンケートにおいて、いじめ問題を取り上げ予防教育を実施した。 ・全校集会等において、身だしなみ、挨拶の敢行、交通マナー等を指導した。 ・体罰に対する生徒・保護者からの訴え等は無い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、事象前の抑止効果ははたらいっている。 ・SNS、Web上への書き込みなど、ネット空間での事象把握について、教員間にも注意喚起を図った。 ・「いじめの早期発見・早期対応・防止対応マニュアル」の改訂版を作成した。
	<p>強化指定クラブの再編、強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国大会に出場するクラブを増やす。 《3クラブ以上を目指す》 	<ul style="list-style-type: none"> ・強化指定クラブに対する特別支援(特待生制度、外部指導者の配置)を継続した。 ・強化指定クラブは、バレーボール(男子)、バスケットボール、柔道、剣道、陸上、弓道、卓球、バドミントン(いずれも男女)、野球、吹奏楽の各部 	<ul style="list-style-type: none"> ・強化クラブの試合等の成績結果を追跡し、再編を検討している。 ・全国高等学校総合体育大会に、団体・バドミントン部(男・女)、個人・剣道部(女)、卓球部(女)、バドミントン(男・女)、柔道部(女)が出場した。 ・三重県の強化指定運動部として、銃剣道部、バドミントン部(女子)が選ばれた。
教務関係	<p>授業改善</p> <p>生徒の学習意欲を高め、興味を引き出させる授業をおこなう。</p> <p>《授業アンケートにおいて、総合的に満足しているに対する満足度を4.0(5段階評価)以上を目標》</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートを実施(6月、11月)した。 ・教科会(毎週)による授業進度の調整並びに授業方法向上等の情報交換が行われた。 《授業アンケートにおける満足度 6月 総合:4.16、1年:4.15、2年:4.23、3年4.04、11月 総合:4.12、1年:4.09、2年:4.22、3年4.04(高校)》 	<p>全体的には高評価であったが、評価が低かった「予習・復習の実施、内容に興味や関心」の設問項目について、改善策を継続検討する必要がある。</p>
	<p>学力の定着と向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習チェックシートの活用(高校) ・朝テストの実施(高校) ・表現力講座の実施(高校) ・朝スタの実施(中学) ・スクールライフの活用(中学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・1,2年生に対し、毎日学習チェックシートを提出、学習習慣の定着等を図った。(高校) ・火～土曜に、朝テストを実施し、基礎学力の定着を図った。(高校) ・“朝スタ”(授業前の読書タイム)の実施(中学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による学校評価アンケートにおいて、「学習チェックシートが役立っている」の設問項目の評価が低かったことについて、学年等でチェック回数を増やしこまめな指導を行う等の改善策を検討している。(高校) ・次年度は朝スタを単なる読書から、読んだ本の紹介に変更し、プレゼン能力の伸長を図る。(中学)

図書関係	生徒の読書意欲を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書だより」を毎月配布し、書棚のレイアウトを工夫した。 ・ビブリオバトルへの生徒参加、年間多読賞の表彰などをおこなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による推薦図書、ポップの作成の投げかけなど、図書委員の積極的な企画参加を図る。
国際交流	<p>国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姉妹校であるローズヒルセカンダリーカレッジとの相互交流の円滑な実施(高校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2学年14名の生徒が、7月21日～8月3日の2週間、ローズヒル校を訪問、語学研修及び交流を実施した。(高校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、多くの希望者があり、受け入れ者数増等を図る検討が必要である。(高校)
組織運営	<p>保護者会、後援会同窓会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者懇談会、学年通信等を通じた連携 ・保護者に対する授業公開の積極的実施(高校) ・授業参観と保護者対象の講演(教務・進路・訓育関係)を実施(中学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者懇談会、学年通信等により情報の積極的発信を行った。 ・授業公開を5月と11月に実施した(高校)。 ・授業公開が一部教科であり保護者の出席者が少なかったことから、全クラスで公開を行い、5月は97名、11月は41名の出席をみた。(高校) ・授業参観と同日に学年懇談会や外部講師による進路講演などを行った。全保護者の9割以上の方に出席していただいた。(中学) 	<p>授業公開、授業参観の積極的実施や学年通信等の充実を図り、前年度と比較し出席増をみたが、保護者等との意見交換の機会増について、さらに検討すべきである。</p>
施設設備	<p>安全で快適な施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動や部活動で使用する施設の安全性確保を徹底する。 ・古くなった学習机・椅子の廃棄と新規購入。 ・節電・節ガス・節水の徹底を図る。《前年度の5%削減》 ・避難・防災意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所の確認等を行った。 ・2号校舎の全面改修及び学習机・椅子の更新(2号校舎)をおこなった。(高校) ・節電・節水等についての啓発文書を配布のほか、節電については2号校舎の教室照明のLED化、節ガスについては各校舎の空調機更新もあり、節ガスについては好結果を得ることができた。 《前年度比較:電気前年度並み、ガス19%削減》 ・避難訓練の実施(9月)、防災研修、非常時食料の備蓄(3年目/5年計画)、防災用品の備蓄(1年目/2年計画)を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・節電・節水等についての啓発活動を継続し、削減目標を達成できなかった節電については、使用されていない教室の消灯等を徹底する。

<p>社会連携・社会貢献 地域活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路清掃活動ボランティアの実施(高校) ・車椅子ボランティアの実施(高校) ・五十鈴川周辺美化運動の実施(中学) ・英語スピーチコンテストの実施 	<p>校友会及び有志生徒、約80名が、本校から五十鈴川駅までの通学路の清掃活動を実施した(10月24日)。(高校)</p> <p>車椅子ボランティアに6月7名、3月26名が参加し、車椅子利用神宮参拝者をサポートする活動を行なった。</p> <p>なお、中学校も美化活動を予定していたが、当日の天候不良のため、中止となった。</p> <p>・英語スピーチコンテストを8月23日に実施し、地域の小学生44名、中学生43名に参加いただいた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア意識の高い生徒が社会奉仕活動を通して、地域の環境美化に貢献したが、参加者増を図るための検討を必要とする。 ・英語スピーチコンテストは、毎年、参加者数が増加しており、本校が地域の小中学生に行なうサービスとして定着した。
<p>管理運営・財政</p>	<p>安定的な入学生数の確保、人件費の抑制、経費削減等により、高校・中学合計の帰属収支差額をプラスとする。</p>	<p>平成26年度決算では、帰属収支差額が高校マイナス1.2億円、中学マイナス1.1億円であった。(2号校舎の全面改修、退職給与引当金等による影響)。</p>	<p>募集定員の入学生数確保及び経費の削減を行い、高校・中学部門合計で帰属収支差額プラスとなるよう、人件費・経費支出の削減策を継続検討していく必要がある。</p>

(2)組織の状態の評価結果

<p style="text-align: center;">アセスメントから明らかになった状況</p>	
<p>強み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方針・教育理念は日々の教育に活かされており、教員が生徒の成長を熱心に支援する体制ができている。 ・部活動の指導体制が充実している。 ・夏季課外/冬季課外/面接指導等、進路希望の実現に向けた指導体制が整っている。 ・リスクの軽減に向けて取り組む体制ができている。
<p>弱み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、分掌・教科に方針や施策展開が委ねられることが多く、一貫性を欠く体制となっている。 ・教員間のコミュニケーションと連携が不足している。 ・学校経営について、マネジメントサイクルを回しながら改善を図っていく仕組みが整備されていない。

(3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
<実施回数>	4回
実施内容	<p>①第1回皇學館高等学校・中学校関係者評価委員会(平成26年7月18日開催) 年間の行事予定、目指す学校像・教師像、中長期目標、平成26年度の学校及び各部の教育目標・重点目標の説明、及び平成25年度自己点検結果報告、学校満足度調査結果、授業アンケート結果、クラブ活動、国際交流、財務状況等の報告 体育大会(中・高)、文化祭(皇高祭、皇中祭)及び皇學館高等学校吹奏楽部の定期演奏会について、委員に出席の案内</p> <p>②第2回皇學館高等学校・中学校関係者評価委員会(平成26年11月11日開催) 午前中は高等学校の公開授業を参観 学校改善関係、行事、進路指導状況、保護者への通信、訓育・グローバル教育関連等、授業アンケート報告等の中間現況報告を行う。</p> <p>③第3回皇學館高等学校・中学校関係者評価委員会(平成27年2月13日) 高等学校・中学校が行った自己点検評価の中間評価について報告し、意見をうけた。</p> <p>④第4回皇學館高等学校・中学校関係者評価委員会(平成27年3月27日) 学校評価報告書についての意見交換を行い、今後の改善方策を検討した。 成案を得た報告書を設置機関(学校法人皇學館全学自己点検・評価委員会)に提出し、保護者や地域に公表の予定</p>

(4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none">・中高一貫教育の高校部分の明確化に努力いただき、中高の縦の連携強化を図ってほしい。・保護者への通達案内方法について、メールを利用等で確実に伝わるよう改善を図ってほしい。・中学校の募集方法について、魅力を関係者に伝えるための改善を検討してほしい。

(5) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組
関係者評価を真摯に受け止め、中高の縦の連携強化、保護者への案内方法の改善、中学校の募集方法の更なる改善(一部は平成27年度募集で改善済み)に努める。